多文化共生への取り組み

市で行っている外国人市民への支援の一部をご紹介します。

外国人市民が抱える問題

外国人市民340人に実施した「暮らしやすい丹波篠山にするためのアンケート」(複数回答あり)。

Q.困ったとき誰に相談しますか
1位 職場の人(46%)　2位 母国の家族・親戚(42%)

Q.参加したことがあるイベントはありますか？
1位 参加したことがない(55%)　2位 地域の交流イベント(25%)

Q.あなたが今必要なことは？
1位 日本人とのコミュニケーション(57%)
2位 日本の文化マナー、ルールを知ること(43%)

〔相談日時〕 月～金曜日　9:00 ～ 16:00
〔場　　所〕 市役所地域振興課内

困っていることがあれば☎079-552-5112

外国人に寄り添った困りごとの窓口
外国人市民相談窓口

外国人市民が増えていることを受けて、新たに市役所内に外国人市民相談窓口をオープンします。この窓口では、くらし、子育て、仕事のことなど生活の中の悩みごとや困ったことをいろいろな国の言葉で無料で相談することができます。

── 相談員　﨑田薫(さきたかおる)さん ──

「技能実習生の方などは３年未満の短期で帰国することが多く、言語やルールを覚える壁が高いです。しかし、人との関わりから土地への思い入れが生まれていくと思うので『丹波篠山に来てよかった』と思ってもらえる場所にしていきたいです」

杉自治会ではコミュニケーション不足解消のために秋祭りでおみこしを一緒に担ぐことを企画。慰労会ではベトナム料理を用意し、交流を深めました。

地域と外国人の関わりづくり
多文化共生推進補助金

外国人市民が地域の一員として共に生活できる社会をめざすため、多文化共生を推進する事業に対して、補助金を交付しています。

【多文化共生推進補助金】
- **対象**＝自治会または企業
- **補助額**＝１団体につき１回限り上限10万円
- **対象事業**＝日本語学習支援、交流事業、生活相談など

外国人市民の声
グエン ティ ハイ ヒエンさん

私が大変だったのは子育てです。ベトナムとは離乳食のやり方が違ったり、学校からの手紙は漢字が多かったりして内容が分かりませんでした。私は夫の母に助けられましたが、誰に相談したらいいか分からない外国人は多くいます。外国人が安心して相談できる場所があることが広まったらうれしいです。

知っていますか？「やさしい日本語」

日本語に不慣れな外国人市民へ情報を届けるためには、翻訳や通訳のほか、「やさしい日本語」の活用が大切です。やさしい日本語とは、難しい言葉を言い換えるなど、相手に配慮した分かりやすい日本語のこと。市役所でも「やさしい日本語」職員研修を実施しています。

[やさしい日本語ってどんな日本語？]
- 必ず印鑑をご持参ください
  →「必(かなら)ずはんこを持(も)ってきてください」
- できるだけ公共交通機関を使ってご来場ください
  →「電車(でんしゃ)やバスに乗(の)ってきてください」

[ポイント]
・ルビを振る
・あいまいな表現を避ける
・簡単な言葉を使うなど

Xin Chào!(シンチャオ)(こんにちは) ── 多文化共生のまちづくり ──
誰もが「住んでよかった」と思えるまちへ

本市において多文化共生とは、国籍や民族が違う人々が互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築きながら共に生きていくこと。お互いを尊重し、誰もが安心して暮らせるまちづくりについて、考えてみませんか？

問い合わせ　地域振興課☎552-5112

誰もが「住んでよかった」と思えるまちへ

人手不足が深刻化する中、外国人材への重要性が高まり、外国人人口が年々増えています。

市では、製造業等の技能実習などで転入する方が多く、市内の外国人人口の割合は全国平均より高い2・7%となっています。総人口は減少する一方で外国人人口は10年間で倍に増え、国籍も多様化しています。

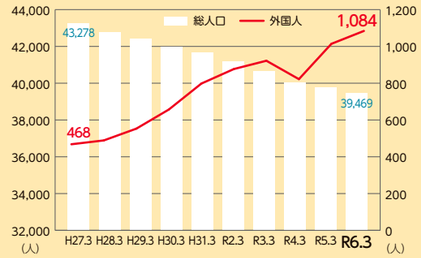
外国人市民の増加と多国籍化に伴い、情報不足やコミュニケーションの問題、文化や生活様式・習慣の違いから発生する生活上の問題などが表れています。ごみの分別に関することや、ライフステージの多様化による妊娠・出産・医療などの課題も増え、外国人市民に対する配慮や支援が求められています。

こうした状況を踏まえ、市では「丹波篠山市多文化共生推進基本方針」を策定し、さまざまな支援活動に取り組んでいます。今後も外国人市民の増加が予想される中、国籍や民族の違いを超えて互いの文化や価値観を認め合い、誰もが「住んでよかった」と思えるまちをめざしていきましょう。

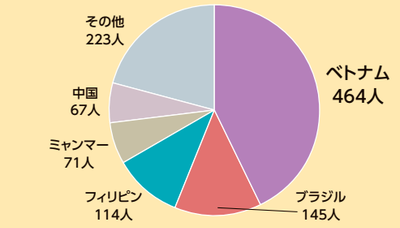
\基本方針はこちら/

丹波篠山市の外国人人口

総人口と外国人人口の推移



国籍別人口(R6.3)



2024夏、アスリートの軌跡

夏に挑む！

この夏、全国大会や近畿大会において、市内の高校生、中学生、小学生たちが熱い戦いを繰り広げました。
ここでは、アスリートたちの夏の挑戦に迫ります。

- HC HYOGO HEARTS 中学男子チーム
- HC HYOGO HEARTS 中学女子チーム
- 丹南・氷上中学校女子ソフトボール部
- レスリング（片桐大誠さん/内藤陽心さん/片桐司道さん）
- 水泳（小稲蓮さん/福島美月さん/畑ことみさん）

悲願Vへ後一歩及ばず ― 地域クラブとして初の全国大会で３位入賞 ―

HC HYOGO HEARTS 中学男子チーム

●後列左から　今井優（篠山中）、中野奏琉（篠山中）、野下奏真（北神戸中）、福本陽向（篠山中）、山本新太（篠山東中）、太野垣響己（篠山東中）

●後列左から　市野大貴（丹南中）、松本太智（丹南中）、杉田元（丹南中）、園田海輝（荒牧中）、上田絢斗（丹南中）、中野瑛太（篠山中）【敬称略】

市内を拠点に活動するホッケークラブ HC HYOGO HEARTS（以下、ハーツ）。部活動から地域クラブへと移行した中学男子チームが、グリーンランドみずほ（京都府）で開催された「近畿中学校総合体育大会」に初出場しました。予選リーグを大量得点で勝ち上がったハーツは、決勝トーナメントでも杉田主将を中心に攻守にわたり躍動しました。有和中（和歌山県）との決勝戦も序盤から相手を圧倒。初優勝を果たし、全国大会への出場権を獲得しました。

8月16日から19日まで小矢部ホッケーフィールド（富山県）で開催された「第54回全日本中学生ホッケー選手権大会」には、男女各24チームが参加しました。ハーツは、予選リーグ2試合を計21得点と圧倒的な攻撃力で勝ち上がり、決勝トーナメントに進出しました。

決勝トーナメントに入ってもその勢いは衰えず、初戦の清水中（静岡県）に8－1で快勝すると、続く準々決勝でも4－1と白根巨摩中（山梨県）を破り、準決勝に駒を進めました。

準決勝の相手は、3度の優勝を誇る強豪・今市中（栃木県）。ハーツは、練習を重ねてきた得意のペナルティコーナーや、カウンター攻撃が決まる一方、相手のシュートをGK山本選手が再三セーブするなどの活躍をみせ、前半3－2で折り返しました。後半は一転、攻守の入れ替わりが激しい展開となり、今市中に連続得点を奪われ3－4と逆転を許す展開に。しかし、直後に得たペナルティコーナーで福本選手が得点を決め、同点に追いつきました。その後、ペナルティストローク（サッカーでのPK）を獲得するも、相手GKの攻守に阻まれ、チャンスを生かしきれなかったハーツ。試合終了間際には、ペナルティコーナーから劇的な決勝点を許し、今大会優勝を成し遂げた今市中に4－5で惜しくも敗れましたが、全国3位という輝かしい成績をおさめました。

「目標は全国制覇でしたが、わずかに届かず、悔しい気持ちでいっぱいです。この夏に得た経験や思いは、ぼくたちの成長につながったと思います」と力強く話す杉田主将。指導する岡花宏明（おかはなひろあき）監督は、「部活動から地域クラブの活動へ移行した初めての大会で、全国の強豪チームと共に高め合う好試合を重ねてくれました。多くの皆さんと感動体験を共有した選手たちを誇りに思います」と、その活躍を讃えました。

①ドリブル突破でゴールへ迫る主将の杉田選手
②後半、同点ゴールを決め、喜ぶ福本選手
③ボールを保持し、攻撃のチャンスをうかがうDF松本選手
④大量得点でチームの勝利に貢献したFW園田選手
⑤ファインセーブを連発し、ゴールを守るGK山本選手
⑥準決勝は試合終了間際に決勝ゴールを許す、白熱の展開となりました
⑦攻守にわたり活躍した太野垣選手

Hockey

総体の結果

近畿中学校総合体育大会ホッケー競技の部

《予選リーグ》
1試合目　○11－0　郡山西（奈良）
2試合目　○ 8－0　立命館（京都）
《決勝トーナメント》
1回戦　○ 9－0　羽衣学園（大阪）
準決勝　○ 4－1　伊吹山（滋賀）
決勝戦　○ 6－1　有和（和歌山）

全日本中学生ホッケー選手権大会

《予選リーグ》
1試合目　○15－0　玖珂・末武・高森みどり（山口）
2試合目　○ 6－1　フリークス東京U15（東京）
《決勝トーナメント》
1 回 戦　○ 8－1　清水（静岡）
準々決勝　○ 4－1　白根巨摩（山梨）
準 決 勝　● 4－5　今市（栃木）

Hockey

総体の結果

近畿中学校総合体育大会ホッケー競技の部
《1位・2位決定トーナメント》
1 回 戦 ● 1−1(SO1-2) 郡山南(奈良)
《3位・4位決定トーナメント》
1 回 戦 ○12−0 羽衣学園(大阪)
2 回 戦 ○ 4−1 郡山南(奈良)
3 回 戦 ○ 2−1 彦根南(滋賀)
3位決定戦 ○ 3−1 瑞穂・蒲生野(京都)

全日本中学生ホッケー選手権大会
《予選リーグ》
1試合目 ● 1−4 今市(栃木)
2試合目 ○ 2−1 赤穂(長野)
《決勝トーナメント》
1 回 戦 ● 0−1 小国(熊本)

1

2

3

①主将としてチームを牽引した数元選手
②得点を喜び合うハーツの選手(左：松浦選手、右：藤井選手)
③ペナルティコーナーでゴールを守るGK小西選手

HC HYOGO HEARTS 中学女子チーム

●後列左から 尾口七絆(丹南中)、藤井夏菜(丹南中)、伏田結羽(丹南中)、岸本璃乃(丹南中)、小田和奏(青垣中)
●後列左から 藤田菜々子(押部谷中)、松浦美咲(丹南中)、数元若菜(篠山中)、小西れな(篠山中)【敬称略】

地域クラブとして「近畿中学校総合体育大会」に初出場したHC HYOGO HEARTS中学女子チーム。初戦の郡山南中(奈良県)との試合はSO(シュートアウト)戦で惜しくも敗れ、3位決定トーナメントに進みました。全国大会への出場権をかけた彦根南中(滋賀県)との試合は、2−1で僅差の試合を制すると、続く3位決定戦でも瑞穂・蒲生野中(京都府)に3−1で勝利し、初入賞を果たしました。

「全日本中学生ホッケー選手権大会」では、予選リーグ初戦で今市中(栃木県)に敗れましたが、赤穂中(長野県)との試合で藤井選手が2得点を挙げるなど活躍。決勝トーナメント進出を決めました。決勝トーナメント1回戦は小国中(熊本県)と対戦。GK小西選手や数元主将らの堅守により拮抗した試合展開となりましたが、終了間際に失点し、0−1で惜しくも敗れました。

数本若菜主将は、「一生懸命練習に取り組んだ成果がでてうれしいです。大きな舞台でホッケーができ、とても良い経験になりました」とにっこり。鈴木良子監督は、「近畿大会の初戦で敗れて以降、後がない状況から勝ち上がり続けた選手らの活躍を讃えたいです」と、その成長ぶりに目を細めていました。

Softball

総体の結果

兵庫県中学校総合体育大会
1回戦 ○13−2 豊岡北
2回戦 ○ 6−4 神河
準決勝 ○ 3−2 野々池
決 勝 ● 0−7 浜の宮

近畿中学校総合体育大会
1回戦 ○ 4−3 真美ヶ丘、片塩、桜井西(奈良)
2回戦 ● 0−7 岸城(大阪)
(5回コールドゲーム)

1

3

2

4

①近畿大会でも力投した長澤投手
②3塁打を放ち、全力疾走する宮田選手
③スラップを決める古杉選手
④勝ち越しの一打を放つ山室選手

「兵庫県中学校総合体育大会ソフトボール競技大会」で準優勝を果たした丹南・氷上中学校ソフトボール部は、8月6日から7日まで山城総合運動公園(京都府宇治市)で開かれる近畿大会への出場を決めました。

初戦の相手は、真美ヶ丘・片塩・桜井西中(奈良県)。丹南・氷上中は、初回に連打で1点を先制されるも、3回二死2塁から宮田選手の3塁打で同点とし、続く山室選手の内野安打で2−1と勝ち越しました。4回には古杉選手が一死1塁からスラップ(※1)を決めてチャンスを広げると、内野ゴロで1点を追加。3−1と突き放しました。守ってはエースの長澤選手が粘りを見せ、勝利を飾りました。

続く2回戦の相手は、昨年度、全国優勝チームの岸城中(大阪府)。序盤から相手のペースで試合が進み、打線もわずか1安打で抑えられ、善戦及ばず0−7で敗れました。

竹内健治(たけうちけんじ)監督は「昨年7月に合同チームが結成した時は、ここまで戦えるとは思いませんでした。週末の練習試合やミーティングを通じて、チームとしてまとまることができました。ここまで連れてきてくれた子どもたちのがんばりと、保護者の皆さんの尽力に感謝します」と話されました。

丹南中・氷上中学校女子ソフトボール部

※丹南中選手のみ紹介
●後列左(4番目)から 松本理佐(まつもとりさ)、園田美羽(そのだみわ)、波々伯部利音(ほおかべりお)、植野陽万里(うえのひまり)
●前列左から 宮田和奏(みやたわかな)(左)、古杉日名子(こすぎきなこ)(4番目)、長澤風樺(ながさわふうか)(6番目)、山室春乃(やまむろはるの)(右)【敬称略】

(※1)左打者がバッターボックスの中で助走をつけて、バットに当たると同時に走り出す打ち方

栄光輝く

長年の功績や日々の努力を実らせ、
栄光に輝いた皆さんをご紹介します

全日本かるた協会 第一級功労賞

水井廉雄（みずいすみお）さん（向井）
篠山かるた会　会長

60年の歴史を誇る篠山かるた会会長の水井廉雄さん。小倉百人一首競技かるたの普及や振興に多大な貢献があったとして、一般社団法人全日本かるた協会から第一級功労賞を受賞されました。1962（昭和37）年に同会の前身である「多紀かるた協会」を仲間と共に立ち上げた父・一雄さんの影響で、小学４年から競技かるたを始められました。６年の時には大人にまじって初めて出場した神戸大会で敢闘賞を受賞。その後も各地の大会に出場して優勝を飾り、トップクラスのA級入りを果たされました。また、篠山鳳鳴高等学校時代には、現在のかるた部につながる同好会も結成されています。大学卒業後は中学校の教諭となり、現役を引退。しかし、かるたのことが忘れられず、小学校への出前授業やクラブ活動など競技の普及に取り組み、ウィーンやローマの日本人学校でも競技の普及に取り組まれました。今回の賞を受けて、「光栄に思います。今後も、カルタを後世に引き継ぐため尽力したい」と話される水井さん。「ぜひ一度、カルタ教室を見に来てほしい」と呼び掛けられています

■篠山かるた会　かるた教室
毎週水曜日18:00～20:00／丹波篠山市民センター

ひょうごユニバーサル社会づくり賞 団体部門「県議会議長賞」

一般社団法人みずほの家

誰もが地域社会の一員として尊重され、互いに支え合い、一人ひとりが持てる力を発揮して活動できる社会の実現に取り組む個人や団体などを顕彰するもの

市内を拠点に障害福祉サービス事業を展開し、短期入所「みずほ」、「ひこうき雲」、共同生活援助「ななつ星」、生活介護「みずほの家マザーハウス」などを運営している一般社団法人みずほの家（山中信人（やまなかのぶと）代表理事）。利用者の皆さんとともに、さまざまな芸術活動を通して、地域に溶け込み、心のバリアフリーが促進していることが評価され、県のひょうごユニバーサル社会づくり賞の団体部門で県議会議長賞を授賞されました。

重度障害者を優先して受け入れられ、芸術活動を通して、楽しみや喜びを感じる機会を提供されている同法人。利用者の皆さんと音楽隊やダンスチームを結成し、「兵庫・丹波篠山国際とっておきの音楽祭」をはじめ地域イベントに出演するほか、県障害者芸術文化祭受賞作品の展示にあわせて賛助展示を行われるなど、音楽部門だけでなく、美術部門にも力を注がれています。今回の受賞を受けて、桐山美和（きりやまみわ）施設長は「さらに地域に溶け込み、私たちの活動を多くの方に知ってもらえれば」とにっこり。創設者の山中信彦（やまなかのぶひこ）常務理事は、「私たちの活動が認められ、とてもうれしいです。この活動は自分たちだけではできません。地域の皆さんの応援があってこそ。これからもさらにつながっていきたいです」と、その喜びを語りました。

KEYWORD で

2024夏、アスリートの軌跡

Wrestling

第41回全国少年少女レスリング選手権大会（東京都）に出場された３人。

片桐大誠さんは、５年生男子39kg級に出場し、３位入賞を果たしました。１・２回戦は、テクニカルフォール勝ち（相手に10点差をつけて勝つこと）でしたが、準決勝では自分の技を出せず敗退。これが一番悔しかったと話した片桐さん。ランバイクもされており、フィジカルがとても強いため、来年こそ優勝をめざします。

内藤陽心さんは、５年生男子28kg級に出場し優勝。２年振り２度目の快挙となりました。決勝では、１ラウンド目で０－０。しかし、内藤さんの攻めが評価され、１点を奪いました。技がかからず苦しい展開でしたが、後半も攻めの姿勢を崩さずに見事勝利。内藤さんは「得意な技で攻めるよう頑張りました」と話しました。

片桐司道さんは、３年生男子28kg級に出場し、初出場で初優勝を飾りました。ベスト８から決勝までの戦いは手に汗握る展開となったものの、攻め続けるスタイルと、勝負所で得意技の腰投げが確実に決まり、ここ一番の強さを生かして勝利。「みんなの応援のおかげで勝てました」と笑顔で喜びを語りました。

※写真左から紹介。
- 片桐司道（かたぎりしどう）さん（味間小３年・猪名川レスリングクラブ所属）
- 内藤陽心（ないとうひなと）さん（味間小５年・猪名川レスリングクラブ所属）
- 片桐大誠（かたぎりたいせい）さん（味間小５年・猪名川レスリングクラブ所属）

／いずれも全国少年少女レスリング選手権大会出場（７月26日～28日）

Swimming

※写真左から紹介。
- 福島美月（ふくしまみづき）さん（福知山成美高１年・NSI西紀スイミングスクール所属）／全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会出場（８月22日～26日）
- 小稲蓮（こいねれん）さん（福知山成美高３年・NSI西紀スイミングスクール所属）／日本高等学校選手権水泳競技大会出場（８月17日～20日）
- 畑（はた）ことみさん（篠山中２年・NSI西紀スイミングスクール所属）／近畿中学校総合体育大会出場（８月６日～７日）

第92回日本高等学校選手権水泳競技大会（佐賀県）に4×100mフリーリレーに出場した小稲蓮さん。レースは全体の65位で大会を終えました。第１泳者を務めた小稲さんは「前半に力んでしまって、後半にばててしまいました。思ったレースができませんでしたが、全力を尽くしたので悔いはありません」と話されました。

第47回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会（東京都）に春夏合わせて８季連続の出場となる福島美月さんは、100mバタフライ15-16歳の部に出場しました。レースでは本来の力を出し切れず予選敗退。「レベルの差を痛感しました。前半のスピードの強化と後半も失速しない泳ぎに取り組み、春のJOC大会では決勝に残りたいです」と抱負を語りました。

200m個人メドレーと400m自由形で近畿総合体育大会（京都府）への出場を決めた畑ことみさん。400m自由形では予選敗退となるも、200m個人メドレーでは予選から決勝でタイムを４秒縮め、４位に入賞。「昨年よりよいレースができました。最初のバタフライと背泳ぎで少し出遅れるので、前半のタイムを上げ、来年は全国大会へ出場できるよう頑張ります」と笑顔で話しました。